

オランダ・ドイツ ESD 研修旅行に参加して学んだこと

～ドイツのリーム地区を参考に広島の高陽団地について考える教材開発の報告～

広島県立高陽高等学校 秋元 美輝

(1) 研修旅行から得たもの

私がこのたびの研修旅行で得たものは、経験と教材です。地理という学問はフィールドワークが重要だと感じています。地誌の授業の際にヨーロッパ研修の話をする、生徒がよりヨーロッパに興味を持つことができると感じました。このたびの研修旅行の写真を見せたり、話をしたりすると生徒がより興味を持つ授業をつくることができました。また、ESDに関する教材開発を行いたいと考えていたため、ESD先進国であるヨーロッパの様子を実際にみることで案内してもらうことで、個人の旅行では行かない場所で、貴重な経験をすることができました。

(2) 平成 28 年に実践した教材

研修旅行から帰国し、すぐにこの教材を考えました。広島のみちづくり・再開発とドイツのリーム地のまちづくり・再開発について比較し、持続可能な開発とは何なのかを考える教材としました。以下が指導案になります。

地理歴史科 地理 B 学習指導案

指導者 秋元 美輝

- 1 学年 3 年
- 2 単元名 人口、村落・都市 都市・居住問題
- 3 単元について

○単元観

この単元では、先進国と発展途上国のそれぞれに起こっている都市・居住問題について考えさせ、それを解決していくためにはどうすれば良いのかを考えさせる。身近な事例である広島のみちづくり・再開発の課題や展望を考え、世界の事例として、ドイツのリーム地区を取り上げた。世界のより良い事例・最新の事例を生徒に教えることで、日本のまちづくり・再開発を持続可能なものにしていくために必要な新しい視点や考えを生徒が取り入れることができればと考える。

○生徒観

授業を行ったクラスは文系クラスで、2年生で地理Aを2単位、3年生で地理Bを5単位、クラス全員が履修しており雰囲気は良く、話し合いもスムーズに進行することができる。しかし、普段の授業から何かに探求心を持って質問してくる生徒は一部で、全体的に受け身的なところがある。探究活動を通して知識が必要なことやもっと勉強をしなければならないとこの授業を通して気付いて欲しい。

○指導観

解決方法を決断することは難しいが自分の身近な事例を取り上げることにより発言しやすい雰囲気をつくる。地理で勉強している都市・居住問題は自分たちの身近な問題で、地理で勉強していることや考え方を使い、社会問題を考えることが大切だと感じさせたい。

4 単元の目標

○世界の都市・居住問題、広島のみちづくり・再開発について理解できる。

○案を批判的に考え、多面的、総合的に考え、他者と協力し、広島の未来像を予測して計画を立てることができる。

○他者と協力しコミュニケーションを取り、話し合いや発表に進んで参加することができる。

5 単元の評価規準

	評価項目	第1段階	第2段階	第3段階
態度 意欲 関心	○グループ活動への参加。	話し合いに参加することができる。最低1回は発言する。	話し合いに積極的に参加・意見する。自分の意見や他者の意見を比較しまとめる。	話し合いに積極的に参加・意見し、進行し、話し合いがスムーズになるように行動できる。
判断 思考	○世界と広島のみちづくり・再開発について考える。	広島のみちづくりについて考えることができる。	広島のみちづくりについて自分たちの問題として考えることができる。	広島のみちづくりについて自分たちの問題として考え、解決策を考えることができる。

	○広島未来像を予測して、持続可能な開発の視点を取り入れて、案を再構築することができる。	持続可能な開発の案がどれか考えることができる。	持続可能な開発の案を考え、広島未来像を予測することができる。	持続可能な開発の案を考え、広島未来像を予測し、新たなまちづくりについて考えることができる。
表現技能	○グループ・全体で発表したり説明したりし、他者と協力することができる。	自分の考えを発表することができる。	自分の考えを発表し、他者の意見も聴くことができる。	自分の考えを発表し、他者の意見も聴き、質問に答えることができる。
理解知識	○都市・居住問題について自分たちの身近な問題と比較して理解することができる。	都市問題についての理解することができる。	都市問題の解決策について知識を得て、理解することができる。	世界の先進的な都市問題の解決策を理解し、自分たちの身近な問題になっている都市問題について知識を得て理解することができる。

6 指導と評価の計画（全4時間）

次	学習内容（時数）	評価					
		関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	発展途上国の都市問題について。先進国の都市問題について。	○			◎	発展途上国と先進国の都市問題について比較しながら理解することができる。	行動観察 定期考査
2	『広島のみちづくり・再開発について考えよう』グループ活動	○	◎	◎	○	自分たちのまちにある課題を考え、多面的、総合的に考え、どう解決していくべきか考えることができる。	行動観察 ワークシート

3	世界の先進的なまちづくり・再開発を行っているリム地区について理解する。	○	◎	○	◎	世界の先進的な事例について理解することができる。	行動観察
4	『広島のみちづくり・再開発について考えよう』 持続可能な開発の視点を取り入れて再思考する。	○	◎		◎	持続可能な開発の視点を取り入れて、広島の未来像を予測してより良いまちづくり・再開発方法を考えることができる。	行動観察 自己評価シート ワークシート

7 単元の展開

時 限	展開の概要
1 時 限	発展途上国の都市問題についての授業をする。 先進国の都市問題についての授業をする。
2 時 限	テーマ『広島のみちづくり・再開発について考えよう！』 グループワーク《4人×9班, 3人×1班》。1テーマ2班ずつ。 生徒は、①広島西飛行場, ②旧市民球場跡地, ③サッカースタジアム, ④広島駅前, ⑤公共交通機関全般について、どのようなまちづくり・再開発があるか複数案考える。 発表を聞いている生徒は、どの案が良いか考える。
3 時 限	教員が、ドイツのリム地区やオランダ・ドイツの公共交通機関がどのようにつくられているかを説明する。 生徒は、自分たちが考えた案が自然と社会との共生が可能か、持続可能な開発であるかを考え、各案を判断し、持続可能なものには○, 持続可能でないものには×を書く。
4 時 限	前回の話し合いの続きをする。生徒は、各案を持続可能か可能でないか判断し、みんなの前で発表する。新たな案があれば加えて発表する。 発表を聞いた生徒は、自然と社会との共生が可能か、持続可能な開発であるかという視点をいれて良い案だと思ったものを考える。

8 まとめと課題、今後の取り組み

授業実践では、生徒が最初に良いと思ったまちづくり・再開発案と、リーム地区の事例を勉強した後、『自然と社会との共生』や『持続可能な開発』という視点を取り入れて良いと思ったまちづくり・再開発案は、全員一つ以上のテーマについて考え方が変化していました。このことにより、生徒は『持続可能ではない点を地理的な視点から発見する力』や『コミュニケーションを取り、他者と協力しながら代替案をつくる力』や『多面的、総合的に考え、未来像を予測して計画を立てる力』などのESDの視点に立った能力・態度が身に付いたと考えます。

生徒のアンケートからは、「最初に考えたことと持続可能という視点をいれて考えたことでは、後者の方が現実味があって難しかった。」「未来のことを考えないと新しくつくっても意味がない。」「大人から子どもまで幅広い層が楽しめることが大切だとわかった。」「ただがむしゃらに計画をたてるのではなく、持続可能であるかということや環境にやさしいかなど、色々な項目に配慮しながら計画することは大変なことだと思った。」「開発と環境維持の両立はとても難しいと思った。」などの意見が書かれていました。このことから生徒をゆさぶり、多面的、総合的に広島について考え、未来像を予測することができました。

しかし、様々な課題も出ました。生徒は自由な発想で様々なことを言うため本当に持続可能な開発の視点が入っているのかを判断することが難しかったです。また、広島はとても住みやすく課題はないという生徒もあり、いかに課題を見つけさせるかが難しかったです。

今後は、まず今回行った授業を改善していくと共に、広島の団地とリーム地区を比較しながら広島の団地の課題を考えるような授業を考えていきたいと思います。そして、今回旅行の中で手に入れた書籍や写真などの教材をもとに新たに教材開発を行っていきたいです。今回の経験を生徒に還元することができるよう、日々の教材研究に努力していきたいと思っています。

広島のまちづくり・再開発を考えよう！ ワークシート

①最初に良いと思った案

②自然と社会との共生，持続可能な開発という視点をいれて良いと思った案

	①		②
●広島西飛行場	【 】	→	【 】
→一言【			】

	①		②
●旧市民球場跡地	【 】	→	【 】
→一言【			】

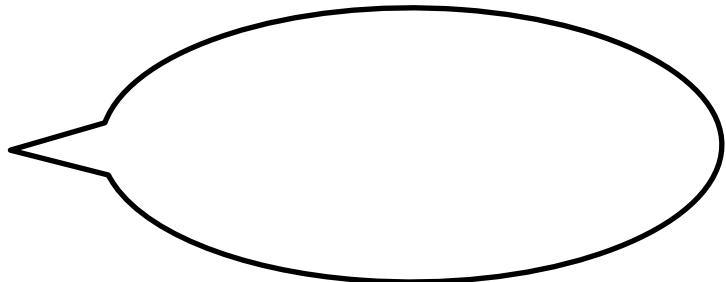
	①		②
●サッカースタジアム	【 】	→	【 】
→一言【			】

	①		②
●広島駅前	【 】	→	【 】
→一言【			】

	①		②
●公共交通機関全般	【 】	→	【 】
→一言【			】

☆持続可能な開発という視点をいれたまちづくりについてわかったこと・感想

Q. 最後に…広島は平和都市としてまちづくりを行っています。その中で問題になっているのは、被爆建物の保存・活用です。あなたならどう活用しますか？



（３）平成 29 年に実践し、改善した教材

平成 28 年に実践した教材のまとめと課題で述べたように、広島という大きなくくりではなく、もっと身近な高等学校がある地域のことを平成 29 年は考える授業とした。実践したものの改善点もあったため、改善した指導案を以下に引用します。

地理歴史科学学習指導案

指導者 秋元 美輝

- 1 学年学級 3 年
- 2 単元名 2 章 地図の活用と地域調査 1 節 身近な地域の調査
- 3 単元について

○ 単元観

学習指導要領には「直接的に調査できる地域を地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色をとらえる地理的技能を身に付けさせる。生徒の特性や学校所在地の事情等を考慮し、地域調査を実施し、その方法が身に付くよう工夫すること。」とある。ねらいとしては、生徒が居住している生活圏の地域的特色をとらえるための地理的技能を身に付けることである。また、身近な地域の課題を考えることで、世界や日本の他地域で同じような課題が起こっている地域との比較をするなど、地域から他地域へ向ける視点を身に付けることができるとより発展的である。

○ 生徒観

授業を行った理系のクラスで、地理Bが受験に必要な生徒もいれば必要でない生徒もいる。授業態度は良好で、発表なども指名すればきちんと行う。授業中もまわりと協力して作業や話し合いなどもしている。生徒観の事前アンケートでは、「この科目が好きである。または興味がある。」という質問に対して、肯定的な意見が 84.6%であった。「周囲の人々と協力してペア・グループ学習を行う」ことに関しても、肯定的な意見が 82%でペア・グループ学習に抵抗感はないようである。

しかし、「自分なりの考えを発表することが好き」か問う質問に対しては、肯定的な意見は 56.4%で、半数の生徒は苦手意識があるようである。このような、受け身な部分もあるため、もっと知的好奇心を高め、生徒が自分で調べよう・発表しようと思うような授業を展開したい。また、「この科目を通じてわからないことがわかるようになった経験をした」と答える生徒は 66.6%、「この科目を通じて他地域と身近な地域の課題・発展について自分なりに考えた経験をした」と答える生徒は 58.9%であり、今回の授業を通じて発展的な探究活動にももっと意欲を持つ生徒を育成し、探究する活動を経験させていきたい。

○ 指導観

地理は受験だけでなく、普段の生活にも役に立つという感覚を生徒に持って欲しいと考え、日々授業を行っている。自分の住んでいる、通っている地域に興味を持ち課題や改善方法を考え、広い視野をもつことができるように指導したい。その中でも、今回は高陽高等学校の身近な地域である高陽地区の団地について考えていく。高陽地区に住んでいる生徒もいるが、ほとんど新興団地や世代の入れ替わりが進んでいる団地に住んでいる生徒が多いため、様々な年代に造成された団地を複数の視点から考えさせていきたい。その上で、高校生として自分たちが地域に貢献するために何ができるかを考えさせたい。また、センターでは第6問で地域調査というテーマの問題が組まれており、新旧地図の比較や地域の課題を考える力や資料を読み取る力をつけることによって、受験にも役立つ授業になると考える。受験でも役に立ち、少しでも自分たちが行動するきっかけになる。そのような授業を目指して指導していきたい。

4 単元の目標

- 身近な地域の資料を参考に、地域の課題を考えることができる。
- ニュータウン（新興団地）の特徴を理解し、何が課題になっているか理解することができる。
- 地域の課題の解決策を自分たちなりに示し、自分たちに何ができるかを考える。

5 題材の評価規準

	評価項目	第1段階	第2段階	第3段階
態度 意欲 関心	身近な地域に関心を持ち、まわりと協働して学ぼうとしている。	身近な地域に関心を持つ。	身近な地域に関心を持ち、自分の意見を持つ。	身近な地域に関心を持ち、他者と協働して学ぼうとする。
判断 思考	履修済みの都市問題についての知識を活かし、住宅団地の課題について思考し、今後どうすればよいか判断することができる。	住宅団地の課題について考える。	住宅団地の課題について、資料を読み込み考える。	住宅団地の課題について、自分の住んでいる団地と調べている団地を比較して考える。
表現 技能	ワークシートやまなボードに自分たちの考えをまとめ、伝わるように発表することができる。	ワークシートやまなボードで自分の考えをまとめる。	ワークシートやまなボードで自分たちの班の意見をまとめる。	ワークシートやまなボードで自分たちの班の意見をまとめ、他者に伝わりやすい発表を行う。
理解 知識	日本の住宅団地の成り立ちやその後の課題について知り、理解することができる。	日本の住宅団地の成り立ちについて理解する。	日本の住宅団地の成り立ちや課題について理解する。	日本の住宅団地の成り立ちや課題について理解し、自分の住んでいる地域についても理解する。

6 指導と評価の計画

次	学習内容	評価
---	------	----

		関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	・身近な地域の団地の歴史的変遷を知る。 ・身近な地域の高陽地区の団地の現状について調べる。	○	◎			・団地の課題について思考・判断し理解することができる。 ・団地の課題について理解し、自分の住んでいる地域について考えることができる。	ワークシート まなボード
2	・高陽地区の団地の現状について発表する。 ・高陽地区内の自分の担当団地と他の団地を比較する。		○	◎		・団地の課題をどう解決すれば良いか自分たちなりの考えを示すことができる。	ワークシート まなボード 発表
3 【本時】	・年代ごとの団地の特徴を考える。 ・高陽地区の団地の30年後を予測する。 ・多摩ニュータウン	○	◎	○		・身近な地域に関心を持ち、まわりと協働して学ぼうとすることができる。 ・住宅団地の課題をどう解決していくべきか、他地域（日本・海外）と比較して考える。 ・ワークシートやまなボードに自分たち	ワークシート まなボード 発表

	を高陽地区の団地を比較する。 ・ドイツのリーム地区について学ぶ。					の考えをまとめ、伝えるように発表することができる。 ・ドイツのリーム地区やオランダ・ドイツの公共交通機関がどのようにつくられているか理解する。	
4	・団地の変遷を理解し、自分たちがどう行動していくべきか考える。	○	◎			・住宅団地の課題をどう解決していけば良いか、自分たちなりに判断することができる。 ・ワークシートやまなボードに自分たちの考えをまとめ、伝えるように発表することができる。	

7 本時の展開

(1) 本時の目標

- ニュータウン（新興団地）の特徴を理解し、何が課題になっているか理解することができる。
- 地域の課題を見つけ、解決策を自分たちなりに示し、自分たちに何ができるか考える。

(2) 観点別評価規準

	評価項目	第1段階	第2段階	第3段階
--	------	------	------	------

態度 意欲 関心	身近な地域に関心を持ち、まわりと協働して学ぼうとしている。	身近な地域に関心を持つ。	身近な地域に関心を持ち、自分の意見を持つ。	身近な地域に関心を持ち、他者と協働して学ぼうとする。
判断 思考	住宅団地の課題をどう解決していけば良いか、情報を比較し、自分たちなりに判断することができる。	住宅団地の課題の解決策について考える。	住宅団地の課題の解決策について話し合い様々な意見を出すことができる。	住宅団地の解決策課題について、自分の住んでいる団地と調べている団地を比較して考える。
表現 技能	ワークシートやまなボードに自分たちの考えをまとめ、伝えるように発表することができる。	ワークシートやまなボードで自分の考えをまとめる。	ワークシートやまなボードで自分たちの班の意見をまとめる。	ワークシートやまなボードで他者に伝わりやすい発表を行う。

(3) 準備物

新詳地理B（帝国書院）、地図帳、資料集、団地地図、地形図、まなボード

(4) 学習の展開

	教員の支持する内容	生徒の学習活動	指導上の留意事項
導入 5分	○前回の復習 それぞれの団地の現状を振り返る。 ○今日は高陽地区の団地が30年後どうなっているのか予測していき、今後どうし	○簡単に発表	○まなボードをはる。

	ていくべきか自分たちなりに考えることを説明する。		
展 開 ①	○40年以上前につくられた団地，35～39年前につくられた団地，30～34年前につくられた団地，20～29年前につくられた団地でそれぞれどういった特徴があるか考えてみよう。	○ピックアップした団地を参考にしながら考える。 ・40年以上前 ★47年前 城ヶ丘団地 ★46年前 ふじランド ★44年前 翠光台 …老年人口が高い。など ・35～39年前 ★39年前 高陽ニュータウン C住区 ★36年前 高陽ニュータウン B住区 ★36年前 高陽ニュータウン A住区 …大規模団地がつくられている。など ・30～34年前 ★33年前 矢口が丘 ★30年前 ハイライフ高陽 …老年人口率10%台。 土地の最低価格もそこまで下がっていない。など。 ・20～29年前 ★22年前 高陽台	○ワークシートにメモさせる。
10 分 展 開 ①	○まなボードを団地の形成された順にいれかえる。各班わかったことを別のまなボードに記入する。		

		★ 22年前 高陽深川台 …小規模の団地で土地が安い。 若い人が多い。など	
展 開 ② 15 分	○では、高陽地区の団地は30年後どうなっているでしょうか？予測してみよう。 ○まなボードに書いて前に貼る。比較する。 ○東京に多摩ニュータウンがある。1960年から造成された団地。地図帳でみつめてみよう。 ○現在の多摩ニュータウンはどうなっているのだろうか？ インターネットで検索して、写真を見てみよう。 ○団地の一般的な人口推移などを説明する。	○老年人口が高くなる。空き家が増える。人が住んでいない。福祉施設が増える。小学校などが減る。など。 ○高陽地区よりもっと前につくられている、日本最大のニュータウンはどうなっているのだろうか考える。 ○インターネットで検索してみる。 検索欄にでてくるキーワードに着目。 【多摩ニュータウン ゴーストタウン】 【多摩ニュータウン 廃墟】など	○答えはない問い。 ○ネガティブな答えが多いと思われる。 ○高陽地区にもみられる似たような風景。

展 開 ③ 15 分	○日本の都市づくりの傾向について理解する。 ○ゴーストタウンにならないためにどう改善していくべきか考える。こういった取り組みを行うべきだろうか？ドイツのリーム地区の事例を見てみよう。	○予測される生徒の考え ○ワークシート記入 ほかの生徒と共有	○実現が難しい案でもとにかく出してみる。 ○再開発の計画の重要性を学ぶ。
ま と め 5 分	○発表をうけて、今後高陽高校付近の団地をどうしていくべきと考えたか、高校生として何ができるか、自分の意見をまとめる。	○ワークシート記入	

(5) 参考文献

○広島市「住宅団地の活性化に向けて」

○広島市「住宅団地活性化ハンドブック 住宅団地の活性化に向けて」

○ひろしま地図ナビ

○国土地理院地図 「高陽地区」

○UR都市機構「TAMA NEW TOWN SINCE 1965」

○UR都市機構「多摩GO!」

今後２種類目の教材を毎年実践し、より良い内容にしていこうと考えています。今後もより良い教材研究を目指して精進してまいりたいと思います。